hitaru OPERA Project

hitaruオペラプロジェクトについて

札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団）が、地元のオペラ団体、教育機関、実演芸術家などの協力を得て、hitaruを舞台としたオペラ作品を創造・発信するプロジェクト。
2021年には、オペラプロジェクトのプレ公演として、プッチーニ作曲 オペラ「蝶々夫人」を一般社団法人 北海道二期会との共同主催で上演。第1回となる今回はhitaruの単独主催であり、一からオペラ作品を創り上げるのは、hitaru初の取り組みです。
2022年3月～4月にかけて実施したオーディションでは、在住・出身など北海道にゆかりがあることを条件に出演者を募集。キャスト、合唱ともにオール北海道のメンバーが揃いました。地元・北海道の力を結集してお届けする「フィガロの結婚」にご期待ください。

hitaruオペラプロジェクト

モーツァルト フィガロの結婚

W.A.MOZART LE NOZZE DI FIGARO

作品について INTRODUCTION

「フィガロの結婚」は、モーツァルトのオペラ作品の中でも屈指の人気を誇る喜劇です。アルマヴィーヴァ伯爵の召使フィガロと侍女のスザンナは、結婚式を控えた恋人同士。しかし、伯爵が権力にものを言わせてスザンナを我がものにしようとたくらんでいることを知ったフィガロは、伯爵をこらしめようと計画を練ります。一方、伯爵の愛が冷めてしまったことに悩む伯爵夫人もまた、自分を慕う小姓のケルビーノに言い寄られて気持ちを動かされながらも、フィガロやスザンナとともに伯爵のたくらみを暴こうとします。そこに、フィガロの結婚を阻止しようとする女中頭と医者がフィガロを相手に訴訟を起こし――果たしてフィガロとスザンナは無事に結婚することができるのでしょうか？

個性豊かなキャラクターが織り成すドタバタ恋愛劇を彩るのは、CMなどでもおなじみの「序曲」や、軽やかでキャッチーなアリア「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」「恋とはどんなものかしら」など名曲の数々。登場人物の想いが絶妙に重なり合うアンサンブルや、軽妙な台詞をチェンバロの音色に乗せて歌いあげるレチタティーヴォなど、この作品にはモーツァルトのオペラの魅力がぎゅっと詰まっています。

誰もが共感できる感情の機微をコミカルに描いた人間模様、庶民が貴族に一泡吹かせる風刺のきいた展開は、時を超え、現代に生きる我々の心をも惹きつけてやみません。

CONDUCTOR

［指揮］
奥村 哲也

1988年渡英しLondon College of Musicにて学ぶ。オペラ指揮者として、関西二期会、関西歌劇団（大阪文化祭賞奨励賞受賞）、名古屋二期会、四国二期会（佐川吉男奨励賞受賞）、日本オペラ連盟、兵庫芸術文化センター、ミラマーレオペラ、西日本オペラ協会、広島シティーオペラ、京都芸術劇場等の本公演をはじめ多数のオペラプロダクション公演等を指揮。関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、九州交響楽団、ザ・カレッジオペラハウス管弦楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団や、国内外のソリストとも多数共演。

DIRECTOR

［演出］
三浦 安浩

鹿児島県出身。国立音楽大学声楽科卒業。メリーランド大学大学院修了。新国立劇場主催小劇場シリーズに「セルセ」でデビューし、現代感覚あふれる斬新な演出で一躍注目を集める。主な演出作品として新日本フィル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」（三菱信託奨励賞受賞）、東京芸術劇場「カヴァレリア・ルスティカーナ」ほか。北海道においてもLCアルモーニカを中心に演出作品を多数発表してきた。新国立劇場オペラ劇場演出チーフ、新国立劇場オペラ研修所主任講師を務めた後、現在、桐朋音楽大学大学院非常勤講師、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師、静岡国際オペラコンクール審査員、日本演奏連盟会員。

セヴィリア、黄金の馬車、北国のフィガロ

「フィガロの結婚」の前日譚「セヴィリアの理髪師」では、ケチな町医者バルトロに囚われているロジーナを見初めたアルマヴィーヴァ伯爵が旧知の理髪師フィガロの助けを借り、貧乏学生や酔っ払い士官に扮しながら、彼女を救出するさまが生き生きと描かれている。ロジーナはめでたく伯爵と結婚し、伯爵夫人となる。憧れの伯爵家へのお嫁入り。花嫁の胸は高まる…。

さぞかし素晴らしい結婚式が執り行われ、彼女は幸せな毎日を送っているかと思いきや、「フィガロの結婚」第2幕冒頭で伯爵夫人は“死んでしまいたい…”と嘆いている。そしてそんな彼女を見つめる侍女のスザンナ。彼女は今日フィガロの花嫁となるというのに何と伯爵から言い寄られていて式どころではなくなってきている状況。

結婚という人生の一大事。新しい人生の旅への憧れと不安を今回ジャン・ルノワール監督の映画「黄金の馬車」へオマージュを捧げながら描いていこうと思います。

ロジーナが幻の黄金の馬車に乗って向かう先は大雪原の彼方、ポプラ並木に囲まれたアルマヴィーヴァ伯爵の城。

果たして伯爵夫人は愛を取り戻せるのか、スザンナはフィガロと結婚できるのか。木枯らしが吹き、そして、雪がしんしんと降り積もる中、城内の人々は皆熱く語り始める。失われた愛を、そして燃える希望を！

「北国のフィガロの結婚」さあ、今、くるおしき1日が始まる。

演出家 三浦 安浩

キャスト CAST

2.26［日］SUN

アルマヴィーヴァ伯爵 岡元 敦司

伯爵夫人 倉岡 陽都美

スザンナ 三浦 由美子

フィガロ 大塚 博章

ケルビーノ 川島 沙耶

マルチェッリーナ 小平 明子

バルトロ 葛西 智一

バジーリオ 岡崎 正治

ドン・クルツィオ 長倉 駿

バルバリーナ 西海 綾香

アントーニオ 小野寺 陸

花娘 水上 千聖

花娘 小林 愛果

合唱 hitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」合唱団

2.28［火］TUE

アルマヴィーヴァ伯爵 門間 信樹

伯爵夫人 石岡 幸恵

スザンナ 倉本 絵里

フィガロ 三輪 主恭

ケルビーノ 吉田 叶倫

マルチェッリーナ 小平 明子

バルトロ 葛西 智一

バジーリオ 岡崎 正治

ドン・クルツィオ 長倉 駿

バルバリーナ 矢野 愛実

アントーニオ 小野寺 陸

花娘 中陳 寿枝

花娘 尾﨑 あかり

合唱 hitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」合唱団

カヴァーキャスト：大野 浩司（アルマヴィーヴァ伯爵）、五十嵐 麻実（伯爵夫人）、粟野 伶惟（フィガロ/バルトロ）、成田 恵（スザンナ）、森 千尋（ケルビーノ）、土谷 香織（マルチェッリーナ）、川村 春貴（バジーリオ/ドン・クルツィオ）、前田 奈央子（バルバリーナ）、葛西 智一（アントーニオ）
助演：菊地 一実、砂田 蘭々、丹治 碧海、緑川 涼音、平 史樹、小野 誠、桝谷 まい子

スタッフ 美術：松生 紘子　照明：成瀬 一裕　衣裳：坂井田 操　振付：桝谷 まい子　舞台監督：齋藤 玲（札幌文化芸術劇場 hitaru）　技術監督：尾崎 要　副指揮：江川 佳郎、塚田 馨一　演出助手：山田 かおり　コレペティトール：伊藤 千尋、鎌倉 亮太、松岡 亜弥子